

| | | | |
|-------------------|--|------|------|
| 授業コード | D7531ZZ | | |
| 科目名 | アジア経済論a | | |
| 担当者 | 石井 雄二 | | |
| 単位数 | 2 | レベル | |
| 開講期間 | 2016年度 前期 | 開講曜日 | 木曜4限 |
| 開講キャンパス | 本キャンパス | | |
| 授業の到達目標およびテーマ | <p>テーマ： アジア経済の発展とビジネス環境</p> <p>現在、グローバル化が進展する中で、ビジネスチャンスを探求し、広く日本企業のアジア進出が顕著になっている。本講義では、①日本企業が進出するアジア経済の情勢の把握、②アジア経済発展のメカニズムと固有の論理の理解の2つの課題に関わる内容を学習する。到達目標は、以上2つの課題の学習内容を十分理解し、それらに関わる専門的知識を習得し、そのプロセスの中で分析力・論理力を身につけることにある。</p> | | |
| 授業の概要 | <p>授業の概要は、下記の5つのポイントとコンセプトに沿って順次進める。</p> <p>①アジア諸国の地理的・歴史的認識、②世界に占めるアジア経済のプレゼンス、③アジア経済圏の相互依存関係、④アジア経済の発展のメカニズム、⑤日系企業のアジア進出</p> | | |
| 授業計画 | <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 アジアの地理的範囲と歴史・宗教・民族的多様性</p> <p>第3回 GDP(国内総生産)から見たアジアの国々の比較</p> <p>第4回 購買力平価説から見たアジアの国々の実質的「豊かさ」</p> <p>第5回 世界に占めるアジア経済のプレゼンス(人口、GDP、貿易、投資等)</p> <p>第6回 中国経済の急成長と世界経済におけるプレゼンスの拡大</p> <p>第7回 アジア経済の相互依存関係の緊密化と統合化(FTA、EPA、、APEC、TPP)</p> <p>第8回 東南アジア経済共同体(AEC)の形成と意義</p> <p>第9回 アジアにおける雁行型経済発展と崩壊のメカニズム</p> <p>第10回 アジアにおける水平的・ネットワーク型分業の進展</p> <p>第11回 アジアにおける産業集積地域と大都市圏の形成</p> <p>第12回 日系企業のアジア進出とケーススタディ(1)</p> <p>第13回 日系企業のアジア進出とケーススタディ(2)</p> <p>第14回 日本のアジアへの企業進出と国内への資金還流</p> <p>第15回 授業の総括とまとめ</p> | | |
| 授業外学習(予習・復習) | <p><第1回></p> <p>予習:事前にシラバスに目を通し授業概要を把握しておくこと。</p> <p>復習:授業概要や進め方、成績評価基準、学習上の注意事項を再確認しておくこと。</p> <p><第2回～第14回></p> <p>予習:事前に配布した講義資料(教材)を読み込み、授業の内容やポイントを把握しておくこと。</p> <p>授業中に指示した課題について十分勉強しておくこと。</p> <p>復習:定期的に授業の理解度を確認する宿題(小テスト)を出すので、それに即して勉強すること。</p> | | |
| 授業の方法と学習上の留意点 | <p>1. 反転授業の手法を導入するので、事前に授業に関わる資料を配布する。</p> <p>2. 4月、5月、6月、7月の4回小テスト(授業理解度テスト)を実施する。</p> <p>3. 授業を総括するテスト(平常点)を前期授業の最後に実施する方針である。</p> <p>4. 毎回の授業は、指定した座席表に着席して受けること。</p> <p>なお、部分的には学生諸君との双方向型の授業の手法を導入するので、積極的に意見や質問を出してほしい。</p> | | |
| 成績評価基準 | 成績評価の基準は、小テスト(確認テスト)40%、前期授業最後の総括テスト60%とする。 | | |
| 教科書 | 特に指定しない。 | | |
| 参考文献 | 特に指定しない。必要とあれば、授業中その都度指示する。 | | |
| 関連して受講することが望ましい科目 | 「国際経済学」「国際金融論」「企業経済学」「経済地理学」「地域経済論」「海外フィールドワーク実習」など。 | | |
| シラバス分野 | 15_学科科目 | | |